

もくもくプロジェクト見学会の感想

文化政策学科 1年 K.H.

『川上から川下まで』というテーマのもと見学会に参加しました。森林、丸太市場、製材所、そして最後に木材でできた渥美さん邸を見学させていただきました。

天竜の山を見学する際に木の管理について、そして森について教えてくださいました。見学させていただいた森は、東京ドーム 12 個分の場所であり、とても 1 人では管理できないような場所でした。その中でも、光が入りやすいように下の枝を切り落としたり、太さを把握できるように数字を書いておいたりと伐採といった大規模な作業だけではなく、細かな作業もされているということがわかりました。



ニッキの木

この葉はとてもいい香りで、
疲れを癒やしてくれました

木材市場では、木の価値について学ぶことができました。特に私が驚いたのは、節があると価値が下がるというお話です。厳しい世界だと感じました。この節を残らないようにするには、枝を切る必要があるということです。



木材の自動選別機

木の曲がり具合、欠点、樹種を
すべて人の目で仕分けている

製材所では、木の活用方法について学ぶことができました。無駄なく木を利用するという強い思いが感じられました。

今回、この見学会を通して、木は奥が深いということを実感しました。木は、早くスクスク育っても良い木とはいえない、時間をかけてじっくりかけた木を良い木であるという言葉がとても印象に残っています。時間をかけると言っても、これが60年や100年、またそれ以上かけなければなりません。実際に60年の木を見ましたが、素人から見るとかなり細いなと思ってしまいました。良い木になるまで管理する人はずっと同じではありません。後継者のために管理し続けるのです。そこから私は、見学会に関わってくださったすべての皆さんの木に対する熱い思いをもくもくプロジェクトで伝えていきたいと強く感じました。

私自身、とても大きな学びを得ることができたと同時に森のパワーを存分に吸収することができたのでこの思いを共有させていただきました。

